

第4回分科会概要報告

| 分科会 | 進行管理審議における計画策定に係る意見等 |
|----------|---|
| 防災・生活・環境 | <p>【第1節 市民の生活を守る『頼もしさ』をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の避難については、平時に皆で決めておくように指導してほしい。また、今後は避難訓練が終わってから反省の時間を設けてほしい。 ・ 中学校における防災訓練の後の反省会について、教育委員会や防災・原子力課と連携を図り、働きかけていきたい。 ・ 自分の地域に防災士がいるのか、誰が防災士かが分かるということは非常に重要であり、福祉関係との連携も含めて、今後の検討課題としていく。また、防災士に年齢制限はないため、学校教育でやれることも検討していく。 <p>【第2節 快適な生活環境を支える『頼もしさ』をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大雪の時こそ、地域での自助、共助で対応することが一番大事である。地域で要望すれば除雪機の補助もあるようなので、そういったことから、地域がより良い関係を築けるきっかけにもなればと思う。 ・ 交通政策を支える補助金制度が市、県、国の縦割りでつながりが欠けている。市、県、国の基準のすきまがあり、県や国の要綱を改善する必要がある。 ・ 住宅リフォーム事業については、制度が始まって10数年が経ち、見直しを行う中で、必須項目に応じた限度額の設定についても検討していく。 |
| 産業・雇用 | <p>【第1節 『豊かな』暮らしを支える多様な働き場をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移住相談は、家族や単身で異なる個々の事情に柔軟に対応できるよう、SNSでの情報発信やオンライン相談の積極的な活用を進めてほしい。 ・ 高校生の地元就職に当たり、市内企業・学校・学生との意見交換や接点の場を増やし、企業の魅力を伝えることや、WEBでの企業説明やアーカイブ視聴など積極的に活用して地元採用につなげることが必要である。 ・ フロンティアパーク完売後は、遊休地利用について検討してほしい。 <p>【第2節 『豊かな』産業を活かし稼ぐ力をはぐくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元購買率の低下に関し、コロナ禍で都市間競争よりもネット通販への流出が加速している点、加えて高齢者中心に移動手段が少ないことが地元購買率低下の要因であると考えられる。民間がネット対応を行いつつ、市がモデル実施している買い物支援事業がうまくいけば他地区への展開を進めたい。 ・ 地元農林水産業の低迷が顕著であるが、ウッドショックによる国産木材への再注目や米山プリンスの販売拡大などチャンスもあるので、行政による地元産業支援を継続・拡大してほしい。 ・ 情報産業の振興に関連して、市内主要3社を中心にDXの推進を市民や企業に身近なデジタル化から推進し、行政も支援する役割を担ってほしい。 |

| 分科会 | 進行管理審議における計画策定に係る意見等 |
|-------|---|
| 健康・福祉 | <p>【第1節 『健やかな』心と体をはぐくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柏崎に住むことで市民が健康増進の活動に積極的に参加できるような企画を盛り込むことはできないか。例えば公園の健康づくりの場としての活用や、それぞれの店舗や事業者が市民の健康を意識した取組を行うなど。 ・ 第1節主要施策1の目標指標に「職域検診の受診率」などの指標も入れていく必要がある。 <p>※ 参考：柏崎市と協会けんぽ「健康づくりの推進に向けた包括的連携協定」を締結済みのため、データの活用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 60歳代の自殺者が多いので、一人で抱え込まずに人とのつながりの対策が必要ではないか。 ・ 地域医療に関する情報の提供においては、出前講座の他にオンラインなど視聴できる方法や、映像をホームページに保存しアクセスできるような工夫が必要ではないか。 <p>【第2節 子どもを産み育てやすい『健やかな』環境をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 婚活イベントに関して、募集の方法に結婚や婚活など意識させないような工夫が必要ではないか。同じ趣味や価値観の仲間との出会いの場からスタートする方法が望ましい。 ・ ひとり親も婚活イベントに参加しやすい環境づくりが必要ではないか。 ・ 産後うつ傾向にある方や子育てに不安を感じている方、ワンオペ育児（ひとり育児）の方などが相談しやすいように、SNS等で気軽に相談できる方法が必要ではないか。 <p>【第3節 だれもが安心できる『健やかな』暮らしをつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障がいを抱えている子どもたちに対して、成長して大人になっていく過程や就職して生活を送る過程でも支援が必要ではないか。また、当事者を巻き込んで支援していくことが今後の社会に必要なではないか。 ・ 男性が子育てに関わらないとワーク・ライフ・バランスは、進んで行かないため、育児休暇の取得の促進など総合的に進めてほしい。 ・ 子どもの発達段階によって望ましい親としてのかかわり方等、子育て中の親の学びの機会も必要であり、特に小・中学生の親に対して学ぶ機会や情報提供があっても良い。 ・ 前期高齢者が介護予防のため、体操などの参加しやすい体制を整えるには、コツコツ貯筋体操ともう少しハードなハツラツ筋トレと個人の体力レベルに合わせた取組ができれば良いのではないか。 ・ 主要施策3「障害があっても、自分らしく暮らせる環境を充実させる」の指標で就労継続支援B型事業利用者増を取り上げており、利用者が増加していることがわかったが、その後の就労継続支援A型や一般企業の障害者就労の間口を広げる必要があるため、目標指標をA型に求めるなど検討した方が良い。 <p>※ 参考：就労継続支援A型は、障害や難病のある方が、雇用契約を結んだ上で一定の支援がある職場で働くことができる福祉サービス。就労継続支援B型は通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である人のために生産活動や就労に必要な訓練を行うことができる障がい福祉サービスのひとつ、軽作業などで職業訓練などを行いながら作業の対価として工賃を得ることができる。</p> |

| 分科会 | 進行管理審議における計画策定に係る意見等 |
|---------|---|
| 教育・スポーツ | <p>【第1節 子どもや若者の『たくましさ』をはぐくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柏崎の子どもたちは、芸術に触れる機会が少ないように思われる。アルフォーレという良い施設があるのだから、生徒たちに良い経験の機会を考えていただければと思う。 ・ 学校に行くのが楽しいとする子どもの数を目標値にするのではなく、そうでない子どもの存在を認めて、多様な教育の方法を認めるべきではないか。学校に行かない選択肢もあるということ子どもたちに発信し、柏崎市が、オルタナティブ教育を認めてくれているまちになったら、それが、子育てしやすいまちの一つになるのではないか。 ・ ICT活用の授業の推進にあたり、若手職員の負担は増しており、学校間に格差も生じつつある。何かあった時の相談先として、ICT支援員の拡充など、行政の支援があれば非常にありがたい。 ・ 教職員は、GIGAスクール関係も含めて非常に多忙となってきた。教職員の多忙化の解消につながる取組も検討して行っていく。 <p>【第3節 スポーツを通じた『たくましさ』をはぐくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツにおいて、成長世代に合った指導のできる人が必要であり、どの競技についても課題の一つとなっている。全体的な底上げや意識の改善に取り組んでいく。 ・ スポーツ指導者の交流はほぼない現状であるため、悩みを指導者同士で共有する場があるとよい。 ・ 優秀な指導者や選手は取り合いとなっており、流出問題に早めに取り組む必要がある。 <p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てとは、子どもだけではなく、親育て・親教育も必要であり、こうした文言も子育てとともに入れるべきだ。よい教育を受けている子どもたちから、親たちに発信できるような仕組みがあると良い。大人が学ぶ教育の場が必要になってきている。 |
| 魅力・文化 | <p>【第1節 『柏崎らしい』個性をはぐくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺の整備に対する満足度調査について、「満足度」という言葉が曖昧。より具体的な内容への改善を求める。 ・ 旧庁舎の利活用について、ターゲットや方向性が決定した段階で共有し、単発というよりは商店街に寄与するよう、できる限りの配慮をお願いするとともに、投資回収を可能にする事業展開の視点の検討を求める。 ・ 柏崎ファンクラブ、ふるさと納税寄附者の「共感」だけでは移住・定住につながらない。人とのつながりが大事であり、柏崎の人たちとつながっていくような仕組みが必要と考える。 ・ 米山プリンセス等のブランディングの方向性について、1位を争うものではなく唯一無二であることがブランドだと考える。 <p>【第2節 大学を活かし『柏崎らしさ』をはぐくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生の活動等が高校生の目に触れるような機会が増えると大学の魅力も高まると考える。 ・ 2大学への進学者に対する市内出身者の割合に関して、新潟工科大学については、入学者数の母数が大幅に増えているため、%（割合）では減少しているように見えるが実数では市内外出身者ともに増えている。良い数値であるのに悪く見えてしまい、この数値の見せ方自体が大学の魅力低下にならないか危惧。目的に合った別の指標の検討を求める。 <p>【第3節 歴史や文化の息づく『柏崎らしさ』をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WEBミュージアムに関して、子どもが自発的に閲覧できるような取組を求める。 |

| 分科会 | 進行管理審議における計画策定に係る意見等 |
|-------------|--|
| <p>自治経営</p> | <p>【第1節 平和と人権を尊重する心をはぐくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 様々なハラスメントに関する研修について、市内のハッピーパートナー企業等の事業主や管理部署担当者を対象に引き続き実施してほしい。 ▪ DVは柏崎特有のものが掴めないとのことだが、言葉による精神的なDVが増加傾向にあることや、男性からのDVだけでなく女性からのDV等、表には表れにくいものに対し、適切な相談対応や働きかけをしてほしい。 <p>【第2節 持続可能な市民力と地域力をはぐくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ SNS活用を推進することに当たっては、ニーズに即した情報が行き渡ることが最も重要との認識を持って運用を進めていく。 ▪ リーダーの育成については、様々な人が重荷にならずに参加しやすいかたちの人材育成を進めるべく、あり方を検討していく。 ▪ 時代や生活スタイルの変化により、コミュニティセンターに求められる役割が変化してきているため、そのあり方を考える時期として検討を進めてほしい。 <p>【第3節 持続可能な行政力をはぐくむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 職員育成においては多様なニーズに対応するため、民間での研修や地域活動に出ていくことが必要である。また、国機関や他自治体との交流を通じて様々な知見が身につく。一方で、女性管理職の割合が低いため、中長期で計画的に女性管理職を育成していただきたい。 |